

【論文】

「特別の教科 道徳」の質的転換に関する一考察 — 人性教育(Character Education)の充実を図る韓国の取組みを手がかりに —

京都大学 全 京和

はじめに

文部科学省は、2017（平成 29）年 3 月 31 日に学校教育法施行規則の一部改正と学習指導要領の改訂を行った。今回の改訂は、2016（平成 28）年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえて、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと、その際、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視することが第一のねらいとされた。また、道徳教育や体験活動を充実させ、豊かな心を育成することも重要とされ、小・中学校の教育課程で道徳が教科化されることとなった。これを受け、小学校では 2018 年度から、中学校では 2019 年度から「特別の教科 道徳」が実施されることになる。

道徳の教科化の背景の一つには、いじめや校内暴力、学級崩壊などの児童生徒をめぐる諸問題への対策という観点が含まれている。少子化や核家族化が進むにつれ、子どもたちの人間関係の希薄化による諸問題が度々指摘されてきた。他人との直接的な関わりがなくても社会生活はある程度送ることができるようになった情報化社会においては、異なる集団と関わることによって対人関係能力を身につける機会も少なく、また、自分に自信がもてず消極的になったり、感情のコントロールができずトラブルを起こしやすくなったりするなど、他者との関わり方や人間関係に悩みを抱えている児童生徒も少なくない。そこで、2015 年 2 月の教育再生実行会議「いじめの問題等への対応について（第一次提言）」を皮切りに、道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」、中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」において、いじめの問題への対応を充実させることが大きな課題の一つとして議論されてきた。この一連の協議の中で、道徳教育は、「自立した一人の人間として人生を他者ととともにより良く生きる人格を形成することを目指すもの」とされ、道徳教育を通して、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識を育むとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものを考え、自らの生き方を育んでいくことが必要であるとしている。また、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。そこで、こうした課題に対応していくために、社会構成主体として高い倫理観をもち、多様な価値観の存在を認識しつつ、他者と対話し協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力を育成する²ために、道徳教育にはこれまで以上に大きな役割を果たすことが期待されているのである。

韓国においても、「公教育の崩壊」と言われるほど、学校現場における一連の諸問題に悩まされており、その解決策の一つとして、人性教育 (Character education) の必要性が提唱された。詳細は後述するが、2015 年 7 月には、『人性教育振興法』が制定され、国レベルで奨励されるようになったのである。韓国

において、人性教育は、学校における教育（教科・教科外活動）全般にわたって実施されることが望ましいと考えられているが、特に中心的な役割を果たすことが期待されているのは、道徳教育である。韓国で使われている人性教育の用語は、英語で **Character education** と訳されるが、それは、アメリカで実施されてきたものである。韓国で人性教育に関する法律が制定され、国家教育課程にも明示されるようになるまで一連の政策開発研究が行われたが、そこでアメリカにおける **Character education** の取り組みは教訓導出（*lesson drawing*）のための対象とされた。アメリカの **Character education** をめぐっては、日本でも学校現場への導入に向けた一連の研究³が行われており、教科教育学や教育心理学に依拠した知見の蓄積へとつながっている。そこで、道徳が教科化し、その質的転換を通じた充実に向けて大きな一歩を踏み出そうとしている今、アメリカで展開されてきた **Character education** を参考にし、道徳教育を通して展開させてきた韓国の取り組みを一つの手がかりに検討することは、日本の道徳教育の質的転換を考える際、示唆を与えらると思われる。

このような問題関心にに基づき、本稿では、韓国において実施されている人性教育の特質について、アメリカの **Character education** を分析の観点にしながら考察し、人性教育がどのように道徳教育の中で位置づけられ、実践されているのかを明らかにすることを目的とする。分析の観点として、アメリカの取り組みを参照する理由は、韓国において人性教育に対する認識が広まり、それが本格的に展開される過程において、多くの先行研究がアメリカの事例を参考にしてきたこと、それに基づいて人性教育の枠組みとビジョンを提示した政策研究⁴が行われたことから、韓国における人性教育の推進にはアメリカの知見が反映されている可能性が高いためである。本稿は次のような構成となっている。まず、アメリカの取り組みを概観することを通して人性教育の元となる **Character education** の特徴を検討し、本稿における分析の観点を明確にする。次に、韓国における人性教育を概観し、道徳科の教育課程の中でどのように位置づけられ、導入されてきたのかについて把握し、韓国における人性教育の特徴を明らかにする。最後に、アメリカと韓国の取り組みを比較することによって、道徳科の中で人性教育の充実を図ってきた韓国型人性教育の特質について考察する。

尚、本稿で対象とする **Character education** は、「人格教育」や「品性教育」、あるいは「キャラクター・エデュケーション」など様々な訳語が用いられているが、本稿では、アメリカにおける取り組みを指す用語として原語の **Character education** を、韓国における取り組みを指す用語として、原語の人性教育（인성교육）をそれぞれ用いることとする。

1. 分析の観点：米国における **Character Education** の取り組み

本節では、アメリカにおける **Character education** を概観し、次節で取り上げる韓国の人性教育を分析する観点を設ける。

Character education の機能は大きく2つに分けられ、その1つ目は、児童生徒に望ましい態度、価値、習慣などを身につけさせ、意味のある人生を送ることができるようにすることであり、2つ目は、学校や社会に害を与えるような問題行動を予防することである⁵。アメリカの **Character education** は、その歴史の初期において、キリスト教的な諸宗教に基礎づけられ学校を通して行われていたが、公立学校から宗教教育が排除されていく中で、**Character education** の役割を担う場所が家庭と教会になった⁶ことから、学校において行われるという考え方は薄れていった。1988年には『アメリカの教育』におい

て、学力向上を達成するうえで Character education の重要性が強調され、公教育で推進する方針が打ち出された。Character education を学力向上と密接なものとして捉え直すことで、積極的に推進しようとする新たな気運へとつながったのである⁷。アメリカにおいて Character education が一層広まった背景には、政策的な取組みが大きい役割を果たしたことがある⁸。1990 年代以降、Character education の必要性が再認識されるにつれ、米連邦議会で Character education に関する法案が採択され、これを元に 36 の州において Character education を義務化、または奨励する動きが広まった。また、当時のクリントン政権の時には、Character education のプログラムに対する財政的な支援を行い、Character education に対する重要性を認識させる契機となった⁹。現在は、教育省傘下の「安全な学校及び麻薬のない学校局」(Office of Safe and Drug-free School) で総括されており、連邦政府と州政府、民間の団体の間の連携の下で約 40 のプログラムが運営されている¹⁰。

アメリカで採択されている Character education は、その内容や指針において、州ごとに違いがあり、学校レベルで状況や条件に合う多様なプログラムが運営されているため、アメリカにおける Character education として一般化することは難しい。そこで、一連の先行研究の知見¹¹を踏まえて、その方向性や全体的な特徴をまとめると、表 1 のようになる。

表 1. アメリカにおける Character Education の特徴

特徴	詳細
① 全国的な教育改革ムーブメント	政治的なイニシアチブによって Character Education を、継続的で長期的なものとして、すべての児童生徒を対象にする教育であるという認識を社会で共有。
② 徳目教育の強化	普遍的な徳目を学校共同体が規定し、徳目の伝授とともに道徳的な思考のトレーニングを並行させるプログラムの実施。
③ 拡大された Character の概念	モラル・キャラクター（倫理的な価値）とパフォーマンス・キャラクター（実践的な価値）として概念を再解釈。
④ 学習成果との関連づけ	Character Education の充実は、学習成果の向上にもつながるといった道徳的な価値と知的な価値を同時に追及。
⑤ 個人と社会の調和を強調	コア・コンピテンシーの涵養を通して個人の生き方と共同体生活の質を高めるといった社会的・情緒的な教育プログラムの展開。
⑥ 学校中心の展開	学校を挙げて追及する価値や理念を認識させ、学校レベルの ethos を見直す。
⑦ 教師の役割の拡大	専門機関や各学校レベルにおける教員研修プログラムの開発。
⑧ 学校と家庭の連携	学校と保護者とのコミュニケーションを重視し、プログラムの趣旨と目標を共有。
⑨ サービス・ラーニングの活用	Character education 関連のプログラムにおけるサービス・ラーニングの増加。
⑩ スポーツ活動の活用	Character education で重んじる価値を追及する活動としてスポーツを見直す。
⑪ 結果に対する評価	プログラムに対して量的評価を行い、客観的で可視的な成果として明らかにし、次へ活かすサイクルの構築。
⑫ 専門機関の活用	資料出版、教員研修、優れた取組みの選定・認証など、複数の専門機関の存在。

出典：筆者作成。

アメリカにおける Character education は、全国的な教育改革のムーブメントであった（表 1 の①）。問題解決のための短編的な方策や一回のみの行事ではなく継続的で長期的なものとして、すべての児童生徒を対象にする教育であるという認識が社会で共有されたが、それを可能にしたのは政治的なイニシアチブであった。その内容には、徳目教育が含まれ、社会的な合意に基づいた公正・責任・正義などの普遍的な徳目を、学校共同体（教師、保護者、児童生徒を包括するもの）が規定し、州や学校において

プログラムが実施されている（表1の②）。このように教育改革として拡大されたことによって、Character の概念も、モラル・キャラクター（公正・寛容・共感・博愛などの倫理的な価値）とパフォーマンス・キャラクター（勤勉・努力・忍耐・節制など実践的な価値）として解釈され、Character education の目的も正しいことをすること（doing the right thing）を超えて、最善を尽くすこと（doing our best work）までを包括するようになった（表1の③）。また、単に Character education を充実させることに留まらず、学習成果につなげて考えようとする動きが含まれているが、それは、真面目で責任ある態度で誠実に学校生活を送ることは、学習成果の向上にもつながるといった道徳的な価値と知的な価値を同時に追及するアメリカ型 Character education の方向性を示している（表1の④）。さらに、5つのコア・コンピテンシー（自己理解、自己管理、社会的認識、人間関係能力、責任ある意思決定）の涵養を通して個人の生き方と共同体生活の質を高めるといった社会的・情緒的な教育プログラムが展開されており、個人と社会の調和が強調されていることも特徴として挙げることができる（表1の⑤）。そして、効果的な Character education を展開させるために、校長のリーダーシップの下、学校が中心的な役割を果たしつつ、学校の雰囲気・文化・風土（school ethos）などを見直していくことも含まれている（表1の⑥）。関連して大きい役割を担っているのが、教師と保護者であるが、教員向けの専門的な研修プログラムが体系的に提供されており（表1の⑦）、保護者の積極的な参加を可能にする連絡システムの構築や、保護者同士の小規模なコミュニティの形成、グループの代表者を対象にしたトレーニングなどによって、Character education の趣旨と目標が共有されている（表1の⑧）。その他にも、関連のプログラムのうち、サービス・ラーニングの形態（教育的目標設定、情報やスキルの事前学習、「振り返り」による学習成果との接続を含む）で行われるものが多いことや（表1の⑨）、スポーツ活動を通じた協同とルール遵守（Character education で重んじる価値）を学ぶこと（表1の⑩）、プログラムの成果を可視化するための大学や民営の研究機関の試みの増加（表1の⑪）、学校現場で使えるコンテンツ、優れた取組みに対する認証、体系的な研究を行う組織の多様さ（表1の⑫）なども、アメリカにおける Character education の特徴として挙げることができる。

西欧諸国と違ってアメリカでは、道徳教育に「社会」の影響が強く反映されていると言われるが、近代にかけて科学・産業分野で不断の変化という事実が広く承認される中、西欧諸国では依然として「内面性」と「永遠性」（実存性と宗教性）という固定の観念が道徳の中核となっているのに対し、アメリカでは「社会性」と「現在性」を強調する¹²Character education が展開されてきたことが伺える。

2. 韓国における人性教育の取組み

本節では、韓国における人性教育の取組みを概観し、道徳科の教育課程における位置づけや、実施の程度について取り上げ、韓国における人性教育の特徴を明らかにする。

（1）人性教育の概観

社会の発達と技術の進歩が及ぼす影響は大きく、その反面、副作用を伴うことも事実である。インターネットを使って物理的な空間の制約を受けることなく、必要な情報などにアクセスできるようになり、経験の幅が飛躍的に広まった。一方で、韓国では、ゲーム依存症、ネット上の暴力（サイバー暴力）、現実感覚の喪失など、新たな問題も急増している¹³。このような現状に鑑み、「人性（人格・品格）」の重要性が議論されるようになった。2016年11月に開催された世界銀行主催の

ワークショップ（グローバル人材フォーラムのプレ・イベント）では、「自分の感情を把握し、他人の考えと感情にも共感できる社会情緒的力量（Socio emotional skills）」がこれからの人材養成には重要¹⁴との結論に達した。また、人性・感性・創意力などは、人工知能にも代替できない人間ならではの高次元の能力であると言われている¹⁵。これらのことから、学校教育において人性教育を充実させていくことは非常に大事であると言える。児童生徒の安全な成長のために、「人性」を教育の中心に据えた政策的な努力が本格的に行われるようになったのは、2016 年制定された『人性教育振興法（法律第 13004 号）』であった（表 2 参照）。

表 2. 『人性教育振興法』の主な内容

項目	詳細
立法の目的	・ 人間の価値を保障し、健全で望ましい人性を備えた国民を育成.
人性教育の定義	・ 自己の内面を正しく健やかに培い、共に生きる上で必要な品格と力量を育む教育.
人性教育総合計画	・ 教育部長官 — 5 年毎に人性教育総合計画を樹立. ・ 市・道の教育監 — 総合計画に基づき、年度別人性教育施行計画を樹立し、施行. ・ 人性教育の推進程度および活用に関して毎年評価を実施.
国家人性教育振興委員会の新設	・ 教育部・文化部・福祉部・女性部の次官、民間の有識者 20 名以内からなる委員を構成. ・ 人性教育に関する事項全般に対する審議機構として活動.
幼稚園・初・中・高校	・ 2015 年 7 月から全国において人性教育の義務的实施. ・ 教育部長官が定めた人性教育の目標と成果基準を遵守のこと. ・ 学校長は、毎年、人性教育にふさわしい教育計画を立て、実施.
保護者	・ 国家、自治体、学校の人性教育振興施策に協力. ・ 人性教育に関して学校等に提案（建議）可能.
人性教育の認証	・ 学校外において行われる人性教育プログラム・カリキュラムに対する認証の実施.
人性教育教員の研修強化	・ 一定の時間以上、人性教育に関する研修を義務化. ・ 教育大学・師範大学 — 教員志望者の人性教育の指導能力の強化のために教員養成における必修科目の開設努力.
人性教育専門人材の養成	・ 国家・自治体 — 人性教育分野の専門人材の養成努力. ・ 教育部長官・教育監 — 関連団体に対し、人性教育専門人材養成機関に指定および支援.

出典：『人性教育振興法（法律第 13004 号）』をもとに、筆者作成。

「人性」という概念は、一つの明確な定義として共有されているというより、概ね暗黙のうちにその意味内容が共有されている側面がある¹⁶。それは、ある社会の歴史的・政治的・文化的な側面に起因する視点が反映されているものとして理解することができる。では、韓国においてはどのような意味を含む概念として「人性」が認識されているのか。「人性教育振興法」（第 2 条）では、「人性教育」の定義として「自分の内面を正しく健全に培い、他人・共同体・自然とともに生きるうえで必要な「人間らしい性品（性質と品格）と力量（competency）」を育むことを目的とする教育を意味する」と明示されている。また、この『人性教育振興法』第 6 条と第 7 条に基づいて、人性教育に関するパラダイムを形成し、その効果を実質的に保障するための政策のビジョンを明確にすることとして『人性教育 5 ヶ年総合計画（2016～2020）』が樹立された。そこには、人性教育の方向性として、未来社会を充実生きるために必要な品格と力量を中心に参加型の教育をデザインし、知っていることを暮らしの中で実践できるようにするために教育活動を体系的に組織・運営することが目指され¹⁷、5 つの領域から成る推進課題が提示された（表 3 参照）。

表3.『人性教育5ヵ年総合計画』の推進課題

領域	主な課題
1. 学校教育活動全般にわたって 人性親和的になるよう見直す	・児童生徒の人性を共に育んでいく環境・システムの整備. ・人性教育中心の教育課程の導入・運営. ・学校における人性教育のサポート体制の構築.
2. 児童生徒に人性を身につけさせる教育の活性化	・児童生徒のニーズに合わせた人性教育プログラムの開発・活用. ・人性中心の創意的な体験活動の充実. ・芸術・体育・人文などにおいて人性をテーマにした教育の充実.
3. 人性教育指導力の向上のための教員サポート	・人性教育の推進主体としての教員の育成. ・教員コミュニティの参加と役割の再考.
4. 家庭・学校・社会の間の連携支援体制の構築	・家庭における人性教育機能の回復. ・地域社会における人性教育の参加・支援の強化. ・関連部局の壁を越えた人性教育サポート体制の強化.
5. 対国民的認識の再考および共通認識の拡散	・人性教育フォーラムの推進. ・人性教育実践イベントへの参加促進. ・様々な公募および行事を活用した共通理解の形成.

出典：筆者作成。

このように、韓国では、関連の法律と長期的なビジョンの提示を通して政策的に人性教育を進めることで、学校教育を中心とする人性教育の拡散と一層の充実が図られている。

(2) 道徳科の教育課程

韓国において、教科としての道徳教育は、「自分と他者、社会との関係に対する理解に基づき、人性に必要な規範と礼儀を身につけ、生活の中で生ずる様々な問題を合理的に解決できる思考力と判断力、実践の動機および能力を含む自律の人格を育成する」ことを目的とするものである。道徳科の授業時間は、日本の小学校にあたる初等学校の3年から6年までは週1単位時間で行われ、中学校の1、2年は週2単位時間、中学校3年と高等学校1年は週1単位時間、高等学校2、3年では週2単位時間となっている。道徳教育に該当する教科目は、初等学校1、2年には、統合教科である「正しい生活」で実施され、初等学校3年から中学校までの間に「道徳」が、高等学校では、共通科目として「統合社会」、選択科目として「生活と倫理」「倫理と思想」「古典と倫理」が置かれている。授業で使われる教科書は、初等学校の場合、国が著作権を持つ全国統一の国定教科書が、中・高校の場合、検定教科書がそれぞれ使われている。加えて、教師用指導書（検定）も用いられている。また、授業を担当するのは、初等学校では担任の教員、中・高校では道徳専任教員である。つまり、道徳科専用の教員免許状があり、その教員免許状を取得した者だけが中学校と高校で教えることが出来るということになっている。

日本の学習指導要領にあたる国家レベルのカリキュラムである教育課程（以下、国家教育課程とする）の中の道徳教育において、人性教育の側面が本格的に含まれるようになったのは第7次(1997年)教育課程からである。2015年改訂(2017年より段階的に施行)の国家教育課程には、「道徳的であること (doing ethics)」、すなわち、批判的な思考をもち、自己省察できる人材育成を目指して、人性教育の要素を道徳教育に適用しながら行うという視点が全体を通して貫かれている(表4参照)。道徳科における人性教育の指導に関して言うと、まずは道徳に関連した知識的な内容を教え、それに関連した話題型の学習を行い、最後にはそれを行動化・習慣化させるための行動指標を提示し、実践を図るといった3段階指導で構成されている。

表4. 2015年改訂の道徳科教育課程の主な内容

■ 省察、自己点検、批判的思考など「道徳的であること（doing ethics）」を強調しながら、人性教育を行う上で、道徳科が中心的役割を果たすことを明示。
■ 核心価値（Core value）（徳目）として誠実・配慮・正義・責任を提示。
■ 道徳科の学習によって身につけることが期待される資質・能力として、実践的な能力・態度・価値などを意味する「機能」を各領域で提示。
■ 学習者主導型の探究的な学習ができるように、道徳科の内容と評価基準を話題型で提示し、探究的な学習を強調。

出典：筆者作成。

このように、韓国では、初等学校から高等学校に至るまで、道徳教育が教科として行われており、改訂の国家教育課程において目指されている人材の育成に、人性教育の側面を含んだ道徳教育の重要性が再考されていることがわかる。

（3）道徳教育における人性教育の充実

韓国における人性教育は、学校教育における顕示的・潜在的なカリキュラムを通して行われており、主に、道徳科を中心とした教科や創意的な体験活動（日本の総合的な学習の時間に相当）などのような教科外活動を通して具体化されている¹⁸。前述のとおり、人性教育が国家教育課程においてその重要性が具体的に示されるようになったのは、第7次教育課程（1997年公示）からであった。1995年の教育改革委員会による新教育体制の樹立に向けた審議¹⁹を通して、第7次教育課程の改訂が行われ、「人性を備えた民主的市民の育成」のために、道徳科教育が中心的な役割を果たすこと、道徳科のコアな教育内容として人性教育を積極的に扱うということが明示された²⁰。

2015年改訂の国家教育課程²¹でも上述した人性教育に対する道徳科の役割が概ね引き継がれている。加えて、道徳性の発達が人性涵養の核であるとし、道徳教育が人性教育であるという両者の関係性に対する積極的な見解が示されている。このような人性教育の強化という方向性は、2015年の国家教育課程の改訂に向けた協議の段階ですでに提示されていた。それは、「参加型の授業を通して児童生徒の学習に対する興味を高め、創意・融合的な思考と正しい人性など、これからの社会に求められる能力を育成することができる教育課程の開発²²」として目指されていたのである。道徳科の教育課程の改訂においても、人性教育を推進するコア科目として道徳科の方向性が以下のように提示されている。

道徳科の教育課程は、人性教育という目標に焦点が置かれている。人性教育の中心教科として道徳科が、さらに積極的に体系的に学校教育における人性教育を推進させるための中心軸となるようにすることが改訂の基本的な方向性である²³

これを受け、改訂された教育課程の道徳科のところでは、人性涵養につながる価値を身につけ、道徳性を発達させるだけでなく、学校生活全般を通して行われる人性教育を統合する教科として道徳科の役割が明確にされている。それは、人性（徳）とは、実践することを学ぶものであり、その人性を構成する基本的な要素を確実に内面化させ、道徳的に生きるための自主性と責任を培う実践的な教科として、道徳教育を見直したものであると理解することができる。

道徳科は学校の人性教育の根幹となる教科である。「道徳的な人間」と「正義感をもつ市民」という重なり合う人間像を志向する21世紀の韓国人が備えておくべき人性の基本要素として、核心価値を確実に身につけ、...（中略）...道徳科は学校が人性教育の中心軸としての役割を担うべきとする社会の要請を積極的に受け入れ、望ましい人性の中核にある道徳性の発達だけでなく、...（中略）...他教科および学校生活全般を通

して行われる人性教育を統合する役割をもつ学校における人性教育の根幹となる教科としての性格をもつ²⁴。

道徳科が人性教育の根幹となる教科であるということは2つの意味として理解できる。まず、道徳科を通して人性教育の精髓をあらわすといった人性教育に対する「主体的な役割」である。もう一つは、すべての教科において人性教育を行うが、それを統合し方向性を示すといった「指導的な役割」である²⁵。

表5. 2015年改訂の初等学校教育課程の道徳科²⁶における人性教育の内容

領域	核心价值	一般化された知識	機能（資質・能力）
自分との関係	誠実	人間らしく生きていくために、嘘偽りなく真心を尽くし、忍耐強く自分の欲求をコントロールする。	道徳的アイデンティティ 道徳性の習慣づけ
他人との関係	配慮	家族および周りの人々と共に生きていくために、互いに尊重し礼儀を守り、奉仕と協同を实践する。	道徳的対人関係能力 道徳的情緒能力
社会・共同体との関係	正義	公正な社会をつくっていくために、法律を守り、人権を尊重し、望ましい統一観と人類愛をもつ。	共同体意識 道徳的判断能力
自然・超越的なものとの関係	責任	人間らしく道徳的な責任を果たすために、人の命と自然、真なる美しさと道徳的な暮らしを愛し、人生に対するポジティブな態度をもつ。	実践能力 倫理的省察能力

出典：筆者作成。

2015年改訂の国家教育課程における道徳科は、その内容の構成において変化が見られる。2009年の教育課程では「領域」「重要な価値・徳目（全体）」「重要な価値・徳目（領域別）」とされていた構成が、「領域」「核心价值」「一般化された知識」「内容要素」「機能」へと改められたのである（表5参照）。また、21世紀の韓国人として備えておくべき人性の基本要素である「核心价值（Core value）」も、2009年の「自律・誠実・節制」「孝行・礼儀・協同」「遵法・共益・愛国心・統一・意志・人類愛」「自然愛・生命の尊重・平和」から「誠実」「配慮」「正義」「責任」へと簡潔にされた。そして、児童生徒が学ぶべき普遍的な知識として「一般化された知識」を、学習後に身につけることが目指されている能力である「機能」に対応させた形でそれぞれ明示している。それから、2015年改訂の国家教育課程には、これからの社会に必要な人間像および核心力量（Core competency）が提示されているが、それらは人

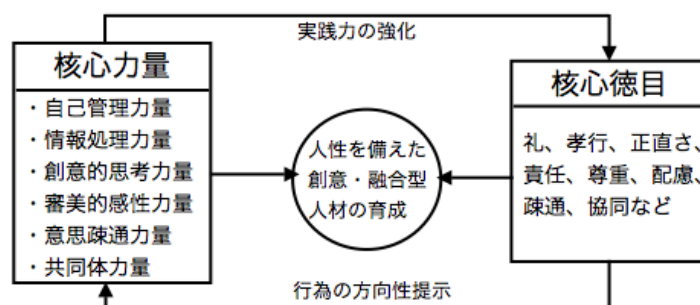


図1. 核心徳目（人性教育振興法）と核心力量（国家教育課程）が目指す人材像

出典：筆者作成。

性教育を通して育成することが目指されている人性力量(徳目)と関連性をもたせたものである(図1参照)。

これらのことから、韓国では、道德教育の一部を規定するものとして人性教育を捉え、人性教育をさらに積極的に推進していく方向で議論を進めていき、近年の教育課程の改訂においてその趣旨が一層明確にされていることがわかる。また、道德科は、人性教育に対するその主体的で指導的な役割を積極的に認識し、知識として習得するだけでなく、学習後の成果として実践を意識したものへと、その内容も見直されていることが確認できる。

3. 考察

本稿は、韓国で実施されている人性教育について、アメリカの Character education を分析の観点に考察し、人性教育がどのように道德教育の中で位置づけられ、展開されているのかを明らかにすることを目的としている。そこでまず、第1節では、アメリカの取組みを概観し、Character education の特徴を踏まえて12の項目からなる分析の観点を設けた。次に第2節では、道德科の教育課程を中心に導入されている韓国の人性教育の詳細を把握した。そこで、韓国では、人性教育に関する法律を制定し、長期的なビジョンとして5年毎に計画を立てるなど、政策的レベルで積極的に人性教育を進めており、学校教育を中心とする人性教育の拡散と充実が図られていることがわかった。また、初等学校から高等学校まで、教科としての道德教育が行われ、道德科は、人性教育を主体的かつ指導的に行う根幹となる科目として再考されていることも確認できた。そこで強調されているのは、知識として習得するだけでなく、学習の成果として実践できる人性教育であった。

ここからは、アメリカの取組みをもとに作成した分析の観点に照らし合わせながら、韓国型人性教育の特質を明らかにしていく。表6は、韓国における人性教育がどのような側面で重点的に推進されてきたのかについてまとめたものである。そこから、国家主導による教育改革の動きとして積極的に実施されてきたことがわかる(表6の◎部分参照)。そこには、性格(personality)として現れる人柄・資質の側面だけでなく、実践の場面で現れ評価できる能力までを含むものとして「人性」を捉えるといった韓国型人性教育の前提にある考え方が反映されている。また、その考え方は、普遍的な価値を学び、一般化させた知識として理解し、実践に活かせる資質・能力として習得するといった道德科の内容構成の見直しにも影響を及ぼしている(表6の○部分参照)。

そして、分析の結果、『人性教育5ヵ年総合計画』や国家教育課程において関連の記述が見られるものの、具体的な実施には至っていない領域として、「学習成果と人性教育を関連づけ」て考えることや、「専門機関によって積極的に支援」していくこと、「サービス・ラーニングとスポーツ活動」を通して人性教育を推進させていくこと、「担当教師に研修を行う」ことなどが明らかになった(表6の△部分参照)。最後に、韓国型人性教育において積極的な検討の対象になっていない領域としては、「結果を測定し、可視化」する研究の推進と、「学校と家庭との連携」があるが(表6の×部分参照)、効果のある人性教育を実施していくために欠かすことができない領域であることから、第1期の5ヵ年計画(2016~2020)のサイクルが終わって第2期に入った時点で強化される可能性はあると考えられる。

ここまで、アメリカの Character education を分析の観点としながら韓国における人性教育の適用・推進の程度についてみてきた。そこから韓国型人性教育の特質とそこに起因する課題について次のよう

なことが言える。まず、学校教育の役割・機能の再考ツールとして人性教育が用いられたことである。国家主導で人性教育が一斉にスタートされたことで、学校教育の役割に関する再解釈を含んだ「人性（인성）」の捉え方が浸透していった。すなわち「人性」を、人間らしい品格につながる内在的性質として捉えるだけでなく、望ましい社会的振る舞いの形として表出するところまでをその意味の範囲とすることであり、そうすることで、学習（学校教育）によって身につけられる能力（望ましい振る舞いを可能にする諸要素）の側面が強調され、学習成果の評価規準になり得る根拠を作った。人性教育を推進する教科として道徳科が位置づけられていることを考えると、道徳科の評価方法の議論へと広がる可能性をもっている。画一的な価値の伝授ではなく、社会の変化と個人のニーズの両方においてバランスのとれたオープンエンド型（議論を通して再考され、再合意が得られる形）にすることで、理念の多元性を共存させ、利害関係の調整を行うことが益々必要とされている中、人性教育の評価をめぐるはまだまだ議論の余地があるように思われる。韓国型人性教育のもう一つの特徴は、道徳教育イコール人性教育という関係性のもとで展開されていることである。「人性」を構成する核心価値（Core value）を道徳科教育内容の軸として設定し、そこから実践できる能力に結びつけて、学習後の成果の基準が設けられている。また、「道徳的であること」があたかも「人性を備えた姿」として提示されていることから、「道

表 6. 韓国における人性教育の適用の程度

適用領域	程度	内容
全国的な教育改革ムーブメント	◎	政治的なイニシアチブによって継続的・長期的なビジョンを社会で共有.
徳目教育の強化	○	人性力量として8つの徳目が提示されているが、学校共同体による規定ではなく、国レベルで提示されたものであり、教育課程との関連性もたれている.
拡大された「人性」の概念	◎	学ぶべき普遍的な知識を、学習成果として実践する能力である「機能」に対応させた形で明示し、実践の観点と能力が強調されている.
学習成果との関連づけ	△	学校教育を望ましい方向へ導く重要な観点の一つに人性教育を位置づけているが、学習成果の向上にもつながるといった積極的な議論はあまり見られない.
個人と社会の調和を強調	◎	道徳的な人間と正義感をもつ市民の両方の側面を備えた人材を、育成すべき人間像として掲げている.
学校中心の展開	◎	『人性教育5ヵ年総合計画』の主な対象は学校となっており、教育課程の改訂にもその認識が明示されている.
教師の役割の拡大	△	教師の果たす役割の大きさについて認識されており、人性教育の推進主体として教員を育成し、役割を再考することが課題となっているが、教育課程における詳細な取扱は見られない.
学校と家庭との連携	×	家庭・地域社会・行政の間の連携・支援が必要との認識は見られるが、積極的な関わりに関する文脈は言及されていない.
サービス・ラーニングの活用	△	創意的な体験活動（教科外活動）の充実をもって人性教育を行うことが目指されているが、目標設定・事前学習・実施後の振り返りまでを含むサービス・ラーニングのようなプログラム化はされていない.
スポーツ活動の活用	△	芸術・体育・人文などにおいて人性をテーマにした教育を充実させることが課題とされているが、人性教育において重んじる価値を迫及する取組みとして積極的に活用しようとする方針は明確にされていない.
結果に対する評価	×	学習後の成果を量的評価で測り、次へ活かすサイクルの構築まではまだ議論が進んでいない.
専門機関の活用	△	教育部からの受託という形で資料制作、優れた取組みの選定・認証などの活動を行う動きはあるが、現在のところ、韓国教育開発院傘下のセンターが管轄しているに留まっている.

出典：筆者作成.

徳」と「人性」の境界線が曖昧にされている。このことは、人性教育に含まれない道德教育の領域を縮小させ、また、他教科にて実施が望ましい人性教育の領域を見えにくくしていると思われる。

最後に、今後韓国において、内実の伴う人性教育を推進させるために議論が必要な課題として、次のようなことを挙げることができる。まず第1に、継続性 (the principle of continuity)・系列性 (the principle of sequence)・統合性 (the principle of integration) が担保された人性教育の内容を充実させる必要があるということである²⁷。人性教育および道德教育においては、単発的な授業で終わるのではなく、有意味な経験を積み重ねていくことが資質・能力の涵養につながるため、繰り返し学習し、その幅と内容の深みを増していけるように、領域の間の連続性や統合性の観点から見直す必要がある。第2に、人性教育の方法論的な工夫が必要である。知的レベルの認識に留まるのではなく、習慣化させ、日常生活における振る舞いなど実践で活かせることができるようにするといった視点が改訂の教育課程において強調されていることから、その具体的な方法を増やし、共有する必要がある。第3に、人性教育を道德科だけでなく、経済や科学といった他の教科にも適用させることも重要である。そのためには、関連教科の教科書の見直しも必要であることから、学校教育全般にわたって方向性を共有することが求められる。その際、人性教育の成否を握る教員と保護者との連携も必要であり、まずは大人から人性涵養のためのプログラムを受ける必要があるかもしれない。加えて、長期的なビジョンをもち、一貫性を保ちながら推進させていくことは必要だが、政府主導で進めるのではなく、民間や非営利団体によるボトムアップ型の活性化を通して継続的なメカニズムを作り上げることや、各学校レベルにおいて、地域の実情を反映した特色のあるプログラムを開発する努力も、充実した人性教育および道德教育には必要な視点であると言える。

おわりに

ここまで韓国で実施されている人性教育の特質を明らかにしてきた。分析の結果、人生教育が国家主導による教育改革の動きとして積極的に実施されるようになったこと、そこで個人レベルと社会構成員としてのレベルの両方において実践できるものとして、「人性」の概念が提示されていること等が確認できた。そのうえで、韓国型人性教育は、学校教育の役割・機能の再考ツールとして用いられてきたこと、また、道德教育イコール人性教育という関係性のもとで展開されてきたことを挙げた。

本稿は、アメリカの取組みから教訓導出 (lesson drawing) された人性教育 (character education) が韓国において導入・運営されている様子を手がかりに、道德科の質的転換としての一方向性を検討したという意味で意義がある。また、日本においても学校教育を通して育成することが目指されている資質・能力を「特別の教科 道德」の中でどのように位置づけ、実践に活かせるか、また、その充実を図るためには、どの領域に対する取組みや支援が必要かなど、教科化した道德を考えていくいくつかの視点を提供できたと思われる。だが、人性教育を道德科の中で検討する方向で議論を進めてきたため、その他の教科や教科外活動における人性教育の側面については詳細なところまで述べられていない。道德科が人性教育の根幹となる教科であっても、人性教育の全体像を適切に把握するためには、(1) 学校教育を構成するカリキュラム全てを分析の対象とすること、(2) 初等・中等・高等学校の段階別の国家教育課程を分けて検討すること、などの作業が必要となる。これらを今後の課題として引き続き取り組んでいきたい。

注

- ¹ 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説：特別の教科 道徳編』、1 頁。
- ² 同上。
- ³ 主な先行研究として、青木多寿子 (「9 年一貫型の地域連携で取り組む品格教育への理論とエビデンスに基づく提案型研究」2011～2015；「世界に通用する日本型品性・品格教育の開発支援」2010～2012) や、柳沼良太 (「人格教育に基づく問題解決型の道徳授業の開発と実践に関する研究」2010～2014) などの科学研究費助成を受けて行われたものが挙げられる。
- ⁴ Chun, S., et al. (2012) *Research for the visions and practices of character education*. Seoul: Korean Ministry of Education, Science and Technology.
- ⁵ Davidson, M., Lickona, T., & Khmelkov, V. (2008) "Smart & good schools: a new paradigm for high school character education". In L. P. Nucci & D. Narvaez (Eds.) *Handbook of moral and character education* New York: Routledge. pp. 370-390.
- ⁶ 森昭 (1955)「現代諸外国の道徳教育—それらは何を示唆するか—」『現代道徳教育講座 I』165-181 頁。
- ⁷ 西野倫世 (2017)「現代アメリカにおけるカリキュラムマネジメントに寄与する道徳教育の組織的推進に関する事例検討：テネシー州チャタヌーガ市の人格教育事業を手がかりに」『教育科学論集』第 20 号、15 頁。
- ⁸ LEE Sung-ho (2014)「アメリカの学校における人性教育の動向と示唆」*The Journal of Korean Education* 41(3), p. 41.
- ⁹ DeRosier, M. E., & Mercer, S. H. (2007) "Improving student social behavior: the effectiveness of a storytelling based character education program". *Journal of Research in Character Education*, 5(2), pp. 131-148.
- ¹⁰ KIM Wang-dong (2011)「アメリカにおける人性教育の現況と示唆」『月刊 外国教育動向』(教育政策フォーラム教育政策ネットワーク情報センター)
<http://edpolicy.kedi.re.kr/frt/boardView.do?strCurMenuId=68&pageIndex=1&pageCondition=10&nTbBoardArticleSeq=240359> (2018 年 9 月 15 日アクセス)
- ¹¹ Schwartz, J. A. (2002) "Transmitting moral wisdom in an age of the autonomous self." in W.Damon (Ed.), *Bringing in a New Era of Character Education*. Stanford: Hoover Institution Press. pp.1-22. ; Prestwich, D. L. (2004) "Character education in America's schools". *School Community Journal*, 14(1), pp.139-150. ; Arthur, J. (2008) "Traditional approaches to character education in Britain and America". In L. P. Nucci & D. Narvaez (Eds.), *Handbook of moral and character education*. New York: Routledge. p.95. ; Colby, A. (2008) "Fostering the moral and civic development of college students". In L. P. Nucci & D. Narvaez (Eds.), *Handbook of moral and character education*. New York: Routledge, pp. 391-413. ; Character Education Partnership (2008) "Performance values; why they matter and what schools can do to foster their development". *Journal of Research in Character Education*, 6(1), pp.73-81. ; Sojourner, R. J. (2012) *The Rebirth and Retooling of Character Education in America*. McGraw-Hill Research Foundation Research Report. ; Yeom, C. (2012) *ASEL Acts in American Elementary Schools and their Implications*. Seoul: Korean Educational Development Institute. ; Smith, B. H. (2013) "School-based character education in the United States". *Childhood Education*, 89(6), pp.350-355 ; LEE, op. cit.
- ¹² 西野倫世、前掲書、14 頁。
- ¹³ 韓国教育開発院人性教育研究室 (2017)「学生の安全で健康な成長を支えるための人性教育政策方案」『教育開発』第 44 巻第 4 号。 http://edzine.kedi.re.kr/2017_9m/contents/contents_020.jsp (2018 年 9 月 15 日アクセス)
- ¹⁴ CHOI byeok (2017)「人性教育を通した民主市民力量の涵養」『第一次人性教育フォーラム資料集』3～14 頁。
- ¹⁵ Schwab, K. (2016) *The Fourth Industrial Revolution*. Portfolio Penguin.
- ¹⁶ HWANG In-pyo (2017)「道徳科人性教育の焦点に関する一考」『道徳倫理科教育研究』第 55 号、157～158 頁。
- ¹⁷ 教育部 (2016)『人性教育 5 ヶ年総合計画』(2016～2020)
- ¹⁸ LEE Chul-ju (2017)「初等学校における人性教育の核心教科としての道徳科教育の地位と志向的探究」『初等道徳教育』第 58 号、200 頁。
- ¹⁹ PARK Soon-kyung, et al. (2007)『初等・中等学校教育課程総論解説研究開発』(韓国教育課程評価院研究報告、CRC 2007-11、114 頁。
- ²⁰ 教育部 (1998)『道徳科教育課程』教育部告示第 1997-15 号 (別紙 6) ソウル：大韓教科書株式会社、28 頁。
- ²¹ 教育部 (2015)『初等学校教育課程：道徳科』教育部告示第 2015-74 号。
- ²² 教育部、韓国教育課程評価院、韓国科学創意財団 (2015)『文理系統合型教育課程改訂のための教科教育課程研究』(研究責任者第一次ワークショップ資料)、2 頁。
- ²³ PARK Byoung-gi, et al. (2015)「2015 道徳科教育課程試案開発研究結果報告書」『韓国教育課程評価院研究報告 (CRC2015-4)、25 頁。
- ²⁴ 教育部 (2015)『初等学校教育課程：総論』教育部告示第 2015-74 号。
- ²⁵ CHOI Nan-sim (2015)「人性教育と道徳科の役割」『韓国倫理教育学会学術大会』、5 頁。
- ²⁶ 教育部 (2015)『道徳科教育課程：道徳科』教育部告示第 2015-74 号。
- ²⁷ CHOI Suck-hwan & LEE Un-ju (2017)「人性教育のための初等道徳科教育課程分析と改善の方向」『初等道徳教育』、第 55 号、144～151 頁。

A Consideration of Qualitative Changes of Moral Education as a Special Subject: Focusing on the Efforts for Enhancing Character Education in South Korea

Kyoung-hwa JEON

The purpose of this paper was to analyze the characteristics of character education in South Korea, including its position in the moral education curriculum and its promotion in current school educational conditions, from the perspective of character education in the United States. First, through surveying the U.S. case, which brings the original idea of the activity in South Korea, the point of view for analyzing the case in South Korea was set. Second, observing its position in the moral education curriculum and its adoption and application process, the character education in South Korea was overviewed. Third, by comparing the case of South Korea with the U.S., the Korean character education, which has been trying to enhance the character education in the subject of moral education, was examined. The results indicated that (1) it had been promoted actively as part of the nationally driven movement of educational reform; (2) the concept of “character” presented the quality that can be performed both at an individual and a member-of-society level; (3) character education adopted as a tool for reconsidering the role and the function of school education; and (4) moral education has come to be regarded as character education.